

園田(園和)住宅と園和文化会の結成

1933年(S8)、阪急電鉄が大阪に近い島の内地区に住宅計画を立てた。当初手がけた住宅建設は、線路に近い下食満、穴太、法界寺、戸ノ内、瓦宮、小中島、富田、椎堂、中食満所属の各一部であった。阪急神戸線開通は、1920年(T9)7月であるが、園田駅の開設は1936年(S11)9月のことであり、それと並行して同年10月に総面積70,892坪、戸数180戸の園田(園和)住宅が売り出された。(坪当たり20~36円)

土地つき建売住宅が建ち始め、自治組織が必要となってきた。当初生まれたものは園田同善会と称し、会員相互の親睦を目的として創られたもので、外部との交渉、連絡などはなかった。当時の住宅は戸数約40戸であった。

その後、わが国の軍国主義的気配を背景として、国民の自治、自衛的な組織の結成が促され、確固たる自治体としての園和会が創設された。会員数43戸であった。1941年(S16)1月住民の総意により、園和会は発展解消を遂げて時局に即応した園和部落会となった。目的として隣保団結の精神に基づき、住民相和して万民翼賛の本旨に則り、地方共同の任務を遂行するとある。同年12月18日、米英に対する宣戦布告と共に、各地自治体は、政府の指令の元に組み込まれていった。

1944年(S19)に入ると、いよいよ本土空襲が本格的となり、園田(園和)住宅地にも園和警防団が組織された。防空訓練、勤労奉仕などが繰り返され、国民義勇隊の編成もされた。1945年(S20)3月、大阪空襲、続いて神戸が焼土化し、尼崎においても3月以降7回の爆撃を受けた。園田における空襲は、園田国民学校(現在の園田小学校)の半焼、当時は兵士の宿舎として使われていた、6丁目駅前通りにあった花嫁学校が爆撃を受け、また新家(現在の6丁目)、富田(現在の1丁目)地区の一部が爆撃された。

戦後は、所帯数499戸、人口2,013人の園和連合町会として、新体制を整えて発足した町会は、その8ヶ月後、進駐軍司令部による一切の集会、これに類する団体の禁止の発令により解散しなければならなかった。

敗戦後の数年は、国全体が生きることにのみ追われ、他を顧みる余裕のない時代であったが、当地区は幸いにも被害が少なく、復興は比較的早かった。

1949年(S24)、平和で安心の出来る生活をするために、自治会組織を作り、団結をしようという気運が興り、準備段階として、有志による親睦会、園和倶楽部がつくられた。

2年間の準備期間を経て1951年(S26)4月、会員相互の親睦と協調、生活文化の向上を図ることを目的として、園和文化会が結成された。当時の園田(園和)住宅は、所帯数700戸、人口約3,000人であった。

この後園和文化会は、その組織力をもって諸官庁その他との交渉等に多大な力を示すこととなった。

昭和24年 園和倶楽部会員名簿



昭和11年 園田(園和)住宅売り出す



昭和11年 園田駅

